

徳 朋

ほうおん
報恩の生活

海 法龍



かい ほうりゅう
1957—現在
熊本県生まれ。真宗大谷
派長願寺住職

ご恩を感じるのはなぜか。それは、教えに生きている師や友に出会い、教えの功德、法をこの身に受けた喜びがあるからでしょう。親鸞聖人はそれを「報恩謝得」と示されました。「南無阿弥陀仏」の徳、功德をいただくところに開かれてくる利益が「謝得」です。それは、教えの徳への感謝であると共に、「謝りを感じる」ということでもあります。

正しいとは言えない私なのに、いつでも自分の正しさに無意識に立っている姿が言い当てられ、自然に深く頭が下がり、「謝っていた・誤っていた・間違っていた」という罪深い愚かな私を実感せしめられるのです。自分の考えていることは絶対に正しいとは言い切れないのに、日常生活の中で無意識にそこに立ち位置にしている私が、教えの光に照らし出され、謝りを感じせしめられるのです。それが報恩という感覚であり、報恩の生活なのです。

「恩」という文字の上部は、敷物を表す「口」に「人」が寝ている姿から、「因」という形になっています。その下に「心」で「恩」です。意味は病気で寝ている人をお見舞いする心です。その心は早く病が治ることを願った悲しみの心です。蓮如上人は、人間の存在の病を無明とおっしゃいました。私たちは自分の姿が見えていないという病を抱えているのです。ですから私たちは、いつでもどこでも誰でも、自分の本来の姿に目覚めて欲しいと、如来大悲のお見舞いを受けているのです。

実は、阿弥^{あみだ}陀という言葉も、如来^{にょらい}という言葉も、無^む等^{とう}等^{とう}という言葉も、根^ねっこはこの大^{だい}悲^ひなの
です。如来^{にょらい}の大^{だい}いなる悲^ひしみ。人間^あの在^{いた}り方を傷^{いた}む如来^{にょらい}の中^{ちゅう}から、「南^{なん}無^む阿^あ弥^だ陀^だ仏^{ぶつ}」が生ま
れてきました。その教^しえに師^し主^{しゅ}知^ち識^{しき}（教^しえに導^{どう}いてくださった方^{かた}々^々）を通^{とほ}して出^い遇^ぐい、そして
今^{いま}度は私^{わたし}たちの中^{ちゅう}に、悲^ひしみ傷^{いた}む心^{こころ}が起^{おこ}ってきま^きます。それを親^{しん}鸞^{らん}聖^{しょう}人^{にん}は「誠^{まこと}に知^ちりぬ。悲^ひ
しきかな、愚^ぐ禿^{とく}鸞^{らん}、愛^{あい}欲^{よく}の広^{こう}海^{かい}に沈^{しん}没^{ぼつ}し、名^み利^りの太^{たい}山^{せん}に迷^ま惑^{わく}して（中^{ちゅう}略^{りやく}）恥^はずべし、痛^{いた}むべし」
（教^{きょう}行^{ぎょう}信^{しん}証^{しょう}）と述^{じゆつ}懐^{かい}されています。「恥^はずべし、傷^{いた}むべし」というしかな^い自分^{じぶん}自^じ身^{しん}に出^い遇^ぐ
い、そのことを恩^{おん}徳^{とく}としていた^{いた}だかれま^ました。それは決^{けつ}して暗^{あん}い世界^{せかい}ではありま^ません。如来^{にょらい}大^{だい}悲^ひ
に照^{しょう}らされ^られた世界^{せかい}は明^{めい}るいのです。

真^{しん}宗^{しゅう}の教^{きょう}えに生^なきた先^{せん}祖^そ、先^{せん}輩^{ぱい}方^{かた}は、そうい^いう世界^{せかい}に出^い遇^ぐえた歡^{かん}喜^きと謝^{しゃ}念^{ねん}と慙^{ざん}愧^きの中^{ちゅう}で、
何^{なに}よりも大^{だい}切^{せつ}な仏^{ぶつ}事^じとして報^{ほう}恩^{おん}講^{こう}を勤^{きん}め、伝^{でん}えてい^いかれ^れたのです。



『報恩の生活』

ご恩^{ごん}に報^{ほう}いと書^かいて報^{ほう}恩^{おん}です。仏^{ぶつ}教^{きょう}に出^い会^{かい}い、何^{なに}も分^わかっ^かてい^いない恥^はずか^かしい自^じ分^{ぶん}
に気^き付^ついてい^いくこ^ことが大^{だい}切^{せつ}です。そし^してその都^と度^ど歩^ほみ^みを正^{ただ}してい^いく事^{こと}が報^{ほう}恩^{おん}の生^{せい}活^{かつ}では
ないかと思^{おも}います。（哲^{てつ}弘^{こう} 拜^{はい}）

この「徳^{とく}朋^{ぽう}」は仏^{ぶつ}教^{きょう}を抛^なり所^{じょ}としてい^いる方^{かた}々^々の言^{ごん}葉^{えつ}に直^{じか}に触^ふれ、この身^みで感^{かん}じ^じる事^{こと}を願^{ねん}いとして
毎^{まい}月^{げつ}作^{さく}成^{せい}してい^います。多^た少^{せう}難^{なん}しい表^{ひょう}現^{げん}もあ^あるかと思^{おも}います^が、気^きにせ^せずご家^け族^{ぞく}で読^よん^んでみ^みて下^{くだ}さ
い。※過^か去^そのものを含^ふめお寺^{てら}のホー^ほムペー^ぺジでも読^よむこ^こともで^できま^ます。

